

2018年1月27-28日 無肥料自然栽培勉強会/合同交流懇親会

2018年1月27日、28日の2日間東京都江東区有明の東京ビックサイトで、無肥料自然栽培の勉強会が行われNPO 無施肥無農薬栽培調査研究会から小林正幸が参加いたしました。

「無肥料自然栽培」の定義とは永続的に農薬、化学肥料、さらに有機肥料も使用しない栽培を言います。参加者は無肥料自然栽培に携わる実施農家、流通業者、農学者など60名余りでありました。

27日始めに北海道GAP認証センターの塩田彦隆氏より世界基準の農産物の安全性を求めたGAP認証の講演がありました。[1. 農産物の安全性 2. 環境への配慮 3. 労働安全と労務管理 4. 農場管理と販売管理の観点より生産手段の安全、生産工程の安全、取扱い行程の安全を考えチェックリストを基に審査を受ける] 農産物の輸出についてはGAP認証の取得が重要であります。ちなみに2020年東京オリンピックでは選手村へ提供する農産物はGAP認証を受けた物であることが条件となるということです。

午前中参加者の発表は稲作生産者、畑作生産者、果樹生産者、流通業者より各々1名でありました。

午後よりは6名のパネラーが選ばれて会場参加者を交えてのディスカッションが催されました。ちなみに無肥研の小林正幸もパネラーとして選ばれました。夜には会場を移して懇親会が持たれ、とても和やかな雰囲気活発な交流の場となりました。

28日は弘前大学人文社会科学部教授 黄 考春氏より自然栽培農産物の流通形態の進化についての発表がありました。その後は米生産と畑生産の分科会に分かれそれぞれ部門で意見交換が行われました。



2017年1月27-28日 無肥料自然栽培勉強会/合同交流懇親会

2017年1月27日(金) 東京都新宿区三丁目のレストラン「ヒズギント」において無肥料自然栽培勉強会/自然栽培パーティー全体会議(合同交流懇親会)が催され参加いたしました。北は北海道から南は沖縄までの無肥料自然栽培の実施者、流通関係者、障害者支援関係者が100名あまり集い交流を図りました。それぞれの立場で広い範囲の意見の交換ができ、とても有意義な時間がもてました。殊に生産者では穀類、野菜、果樹の農家様と今後の訪問を約束いたしました。今回企画運営にあたられましたサンスマイルの松浦智紀様には敬意を表し感謝申し上げます。またNPO 無施肥無農薬栽培調査研究会が日本唯一の無施肥無農薬栽培の認証機関と紹介いただき誠にありがとうございました。持ち込みました無施肥栽培米で仕込んだ純米大吟醸酒「京神楽」はあっという間に空になり大盛況でした。

28日、29日の2日間東京ビックサイトにおきまして無肥料自然栽培勉強会が行われ、28日の午前中のみでありましたが参加いたしました。弘前大学農学生命科学部生物学科 杉山修一教授の講演があり聴講いたしました。無肥料自然栽培の稲作、畑作、果樹についての研究講演はとても興味ある内容でした。

